

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・3月号・付録  
2010年3月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年6月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL(03) 5379-5521 / FAX(03) 5379-5510  
ホームページ http://www.houkon.jp/  
Eメール kondankai@houkon.jp  
編集・隈部紀生

2月から下期の作品募集を始める。2月27日(土)、28日(日)の2日にわたってギャラクシー賞のテレビ部門受賞作を見て語り合う会を東京・江東区の門仲天井ホール

へテレビ部門

◇選奨事業委員会  
ギャラクシー賞の各賞の名称について検討した結果、当面は今ままで通りの名称を継続し、50周年の節目に向けて賞の部門別、選考のあり方、各賞の名称などを改めて検討することにした。

◇出版編集委員会  
「GALAC」4月号の特集は「ニッチを開拓せよ——BS、MXの挑戦」、表紙は柴咲コウさん。パースンは湯浅誠さん。5月号は「著作権とは何か」(仮題)を特集する。

## 3月8日のシンポジウム詳細決まる 参加者募集を開始

2010年1月理事会報告

で開く。参加費は1000円(上映番組など詳細は同封のチラシをご覧ください)。多くの方に参加していただけるようお誘い願いたい。

へラジオ部門

1月の会合で地方局の番組を試聴したが、今後何とか元気の出るような選奨をしたい。

へCM部門

下期の募集は2月中旬から始める。

◇企画事業委員会

3月8日(月)に千代田区都市センターホールで開くシンポジウム2010の出演者が全部決まった。原口一博総務相も出演の予定。テーマは「放送新世代へ3つの焦点」政策・広告・経営」とした。詳細は同封のチラシをご覧ください。

の上、多くの方にご案内いただきたい。

◇総務関係

・今年役員改選の年であるため、近く選挙管理委員会を発足させて投票や開票について決める。

・志賀賞の選考委員会の初会合を2月3日に開いて正会員からの推薦の具体的な進め方などを決めて、選考作業を開始する。

・ギャラクシー賞のトロフィー製作について素材を変更して製作費を前年より安くする方向で発注した。

◇入会の承認

影山貴彦さん

◇理事会の日程  
2月理事会は2月23日(火)、3月理事会は3月24日(水)、4月理事会は4月27日(火)。いずれも午後6時30分から。

◇出席

音好宏、隈部紀生、上滝徹也、小田桐誠、藤田真文、石井彰、入江たのし、五井千鶴子、嶋田親一、滝野俊一、橋本隆、藤久ミネ

## 会議記録

「1月」  
5日 (選奨) テレビ月評会  
21日 (選奨) ラジオ定例部会  
22日 出版編集委員会  
25日 理事会

## 放送批評懇談会 上半期スケジュール(予定)

2月27日、28日 ギャラクシー賞  
テレビ部門受賞作を見て語り合う会  
3月8日 シンポジウム2010  
「放送新世代の焦点～政策・広告・経営～」  
3月下旬 理事選挙  
6月3日 第47回ギャラクシー賞贈賞式  
6月中旬 総会

## 投稿

### 「坂の上の雲」西村統括を囲んで

石井清司

3年の長期にわたって、間をおきながら連綿とつづく、NHKの3部作スペシャル「坂の上の雲」(原作・司馬遼太郎)が、昨11月29日(日)からスタートした。その第1回放送の5日前、スタッフがもっとも緊迫した時期の11月24日、同スペシャルのエグゼクティブ・プロデューサー(統括)西村と志木氏の出席を得て、青山の東京ウィメンズプラザで囲む会を開き、制作の知られざる実情を聞いた。

脚本野沢尚は10稿を重ね、直後自死している。各1時間半で第1部の演出は柴田岳志氏。前半はゆっくり目、後半がたいへんという。5本、4本、4本計13本の3部作。1部は11月29日、第2部は「龍馬伝」放送のあと第一部を再放送した上で2010年末、3部は9回まで再放送した上2011年の末に放送する。あわせて13本の撮影には3年、ポストプロを入れて4年かかる。テレビは生きものだから、全部仕上がってからでは遅い。3

年でNHKを立て直すという経営陣の判断も働いた。

司馬は40年前に5年の資料準備の上で、10年かけて産経新聞夕刊に書いた。その調査は凄く、神田の古本屋街から関連本が消えたという。映画化やテレビ大河の企画のOKは生前でなかった。電通や今野勉、近藤晋らの働きかけも実らなかった。司馬には戦争讃美と受け取られかねないことや乃木希典の描き方などいろいろ懸念があった。その後、東西冷戦構造が消滅して時代が大きく変わり、没後3年、司馬夫人や司馬記念館長や元産経新聞記者で司馬の盟友だった司馬財団常務理事などによる、司馬が手がけた頃の時代の空気、60年代の学園紛争などを知っているテレビの作り手がいるうちに、という配慮もあり「最後までしっかり仕上げろ」の励ましのもとに制作の許諾が出た。これら内実にも通じた参会者の皆さんに恵まれ、西村氏持参の映像を交えて、談論風発した2時間半だった。

### 【投稿のお願い】 ご意見をお待ちしています！

会報「ほうこん」では、会員の皆さまのご意見を反映させるため、「投稿欄」を設けております。どのようなご意見でも結構ですので、ぜひ事務局までご投稿ください。投稿の字数は400字程度でお願いします。Eメール(kondankai@houkon.jp)、ファクス(03-5379-5510)でお送りください。お待ちしております。